

2026 年 7 月

消化管造影検査・内視鏡検査を受けられる

患者さんおよびご家族の皆様へ

当院では、消化管穿孔、縫合不全、狭窄、閉塞等が疑われる患者さんに対して、診断目的で消化管造影検査・内視鏡検査を実施しています。

これまで主として『ガストログラフィン経口・注腸用』を使用してきましたが、製薬メーカーの製造上の理由により、全国的に入手が困難な状況となっております。このため、当院におきましても、検査や治療を継続するために、供給が安定するまでの間、代替造影剤としてイオパミドール注を用いた消化管造影検査・内視鏡検査を実施します。

【使用する医薬品について】

イオパミドール注(製品名:イオパミロン注、イオパミドール注「F」)

【安全性および医学的妥当性について】

イオパミドールは、日本国内では主に血管造影、CT 検査、尿路造影などの検査に広く使用されている非イオン性ヨード造影剤です。国内での経口投与は承認されていませんが、海外では消化管穿孔や縫合不全が疑われる症例に対する造影剤として経口投与の使用実績があり、その有用性および安全性について一定の知見が蓄積されています。

【使用方法】

検査目的に応じて適切な濃度に調製したイオパミドール注を、経口又は消化管内へ投与し、X線透視や撮影を行います。消化管投与は国内添付文書上の適応には含まれていないため、本使用は適応外使用に該当します。

【適応外使用について】

一般に医薬品は、添付文書(薬の説明書)に記載されている用法・用量および使用上の注意に従って使用されます。しかし、一部の医薬品は、添付文書に記載されていない方法で使用する場合があります、これを「適応外使用」と言います。

イオパミドール注の適応外使用については、あらかじめ当院の薬事委員会において承認を得て実施しております。そのため、本件につきましては患者さんからの書面による同意書の取得は省略させて頂き、ホームページによる情報公開(オプトアウト)をもって代えさせていただきます。

【効果(予想される利益)】

- ・消化管の狭窄、閉塞、穿孔、縫合不全などの診断に役立ちます。
- ・必要な治療方針の決定に役立ちます。

【副作用(予想される不利益)】

イオパミドール注の消化管投与における重篤な副作用の頻度は低いですが、以下のような副作用が起こる可能性があります。万が一、副作用や気分不良が生じた場合は、直ちに医療処置を行います。

- ・消化管症状:下痢、吐き気、嘔吐
- ・アレルギー反応:発疹、かゆみ、じんましん、呼吸困難など

【注意点】

- ・過去にヨード造影剤で副作用が出たことがある方は、必ず担当医にお申し出ください。
- ・気管支喘息や他の薬剤で重いアレルギー歴がある方は、副作用が起こりやすい場合があります。
- ・腎機能が低下している方では、検査前後の管理が必要になる場合があります。
- ・検査中や検査後に気分不良、発疹、呼吸苦などが生じた場合は、直ちに医療スタッフへお知らせください。

【治療費】

本検査に伴う費用は通常の診療費として取り扱われます。

なお、添付文書に従った使用法で医薬品を適正に使用したにもかかわらず健康被害が生じた場合は、各種の副作用救済給付を行う制度(医薬品副作用被害救済制度)があります。

「適応外使用」で健康被害が生じた場合は、現在の医学・薬学の学問水準に照らして総合的に判断され、救済制度が適用されるかどうかが決まります。このため、救済制度の適用とならない場合もありますことをあらかじめご了承ください。

安全な医療継続のため、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

青森県立中央病院
代表 017-726-8111